



西河 巧

「循環型社会の構築に向けての取組み」について

問 近年、地球の温暖化、環境汚染等私たちが健康で快適な生活を営む上で様々な問題が起こってきている。こういう諸問題改善のためにも、循環型社会の構築を進めなければならぬと思う。そこで一つ目には、家庭ごみの減量化について、現状と今後の取組みについて、資源ごみの回収方法について伺う。

答 平成9年に発生したダイオキシン問題を契機に、能勢町ごみ減量計画を策定し、平成11年度を基準年度とし50%の減量目標と定めてその支援策として、集団回収の報奨金制度や生ごみ堆肥化機

一、「循環型社会の構築に向けての取組み」について
二、「学校建設の進ちよく状況」について

器購入補助制度に取り組んでいる。平成24年度時点においては、基準年と比較して41.4パーセントの減量化が図られている。しかし、これは主に人口の減少が大きな要因になっている状況である。住民一人当たりの排出量については、横ばい傾向である。

「新学校建設の進ちよく状況」について

問 特徴ある学校づくりに向けて周辺整備等の計画について具体策を伺う。

答 現代は、バックヤードや周回道路について、体づくりやキャリア教育、環境教育、自然観察などの教育活動の中でどのような活用ができるか、プロジェクトチーム等で検討している。住民の方々からのご意見を伺いながら、地域開放できるエリアとして有効活用できるように検討していきたい。

問 里山資源の活用について能勢町としてどう取り組んでいるのか。

答 本町では里山保全活動に取り組む団体に対し、活動機材の貸し出し、活動フィールドの情報提供などを行う里山保全活動支援事業、企業やNPO団体などとの連携によるアドプトフォレスト事業に取り組んでいる。

一般質問



中西 顕治

職員待遇

「ブラック企業」が社会問題として取り上げられている昨今である。

大型公共事業への巨額の投資のために「町財政が枯渇する」として行財政改革プログラムを策定し、施策削減、人件費抑制を進めるという中、職員待遇について質問した。

問 能勢町役場内には年収200万円に満たない嘱託職員が相当数勤務されていると聞く。嘱託職員の待遇はどうなっているのか。

答 本町では多種多様な職種で嘱託職員を雇用している。その中で年収が200万以上となる職種は多くはない。また、勤続年数による加算等も行っていない。

能勢町役場はブラック企業？

嘱託職員として採用するに当たって、本人に了解を得ている上でのもので、そこに問題があるというような認識はない。

問 町の活性化、雇用の創出を謳う中、役場内職員の非正規率が4割を超え、パートも含めると半数が非正規という状態で、町内事業所にちゃんと指導できるのか。

答 指摘の懸念も理解するが、行財政改革プログラム策定等にも当たり財政的に非常に厳しいという状況もあり、待遇改善は厳しい状況である。

問 さらに職員定数削減の予定だが、職務継承もおぼつかない状況にあるのではないのか。

答 確かに理想的な年齢バランスとかは遠いところであるが、年齢バランスについては、一定考えていかなくてはならないと思う。



総人件費の抑制が求められている中、嘱託職員の皆様は本町の貴重な戦力であるというふうにご考えており、引き続き有効活用を努めていきたいと考えているので、ご理解をいただきたいと思います。